

## 令和3（2021）年度第1回総合教育会議概要

日 時：令和4（2022）年2月2日（水）午後3時～午後4時29分

会 場：柏崎市役所4階 4-3、4-4会議室

出席者：櫻井市長、近藤教育長、米谷教育委員、阿部教育委員、三嶋教育委員、梅田教育委員、事務局（飛田総合企画部長、宮崎総務課長、飯田教育部長、徳間教育総務課長、池田学校教育課長、伊比教育総務課長代理）

報 道：新潟日報社

### 1 開会挨拶

（市長） 本日は、教育委員の皆様、大変お忙しい中、第1回総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。いまだ新型コロナウイルス感染症の感染防止対策としてマスクをしながらの会議となりますが、「小・中学校における学力向上プロジェクトについて」と「学校における諸課題について」を議題に会議を進めてまいります。委員の皆様から、建設的、率直な御意見を賜りたいと思いますので、よろしく申し上げます。

### 2 議事

#### (1)小・中学校における学力向上プロジェクトについて

（事務局） このプロジェクトについては、既に昨年11月10日の市長定例記者会見で、発表している。これは、子どもたちから持続可能な社会や未来の担い手になってほしいとの願いから、その人材を育成するためのプロジェクトである。目標として、令和4（2022）年度から3年間で、全国学力・学習状況調査において全国平均・県平均を3～5ポイント上回ることを掲げている。11月9日に校長会などからなる「学力向上プロジェクト」を立ち上げ、具体的な検討を重ねて完成させた。

保護者配付用に分かりやすくまとめたリーフレットを、本日の市長定例記者会見で発表した。

今まで、柏崎市の子どもたちの学力の基礎・基本の部分は、全国・県を上回る数値を残してきたが、令和3（2021）年度の全国学力・学習状況調査では、小学6年生、中学3年生の結果が、残念ながら低い数値となった。これは、国の学習指導要領が大きく変わり、今子どもたちに求められている学力の内容がかなり変わり、それに伴い問題の傾向も変わったことが要因になっている。この結果を受けて、子どもたちの将来を危惧し、本プロジェクトを立ち上げたということである。学力調査の結果から具体的な課題を明確にして、今後どのような対策が必要かを検討してきた。

全国平均・県平均を3～5ポイント上回ることを実現するために、「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養」の三つを重要視していく。そのための人的支援として、指導補助員、介助員の増員にも努めていく。

保護者配布用リーフレットだが、保護者の方に何を伝えるのかを考え、構成も検討した。タイトルを「柏崎ステップアップ学びプラン」とし、課題は「思考力・判断力・表現力や、知識・技術を活用する力が全国平均を下回っている」ことだとはっきりと記載した。そしてこのプロジェクトが、「子どもたちが、将来、より多くの職業の選択肢の中から自分の夢をつかみ、幸福な人生を送るための取組」であることを最初に述べている。具体的な取組として、「子どもが主体の多様な学び」、「一人一人に応じた学び」、「他者と力を合わせるリアルな学び」を掲げている。

(市長) 今の説明に関して、感想や御意見を伺いたい。

(米谷) コロナ禍によりいろいろな制約がある中、学力アップという大きな喫緊の課題に対しては、関係者が力を合わせて取り組んでいく必要がある。

将来を見据えたプランであるというのが一番大事な点だ。全国平均・県平均を3～5ポイント上回るという定量的な目標があるからこそ、ステップを踏んで目標に近づけていけるのだろうと理解する。時間は要するだろうが、良い方向に向かうことを望んでいる。

「生活環境を整える」とか「給食をしっかりと食べる」ことなど、市がこれまで続けてきた、子どもたちの健康につながる将来の土台作りと学びプランとを同時並行で行ってほしい。生活環境や生活態度は、学力と相関関係があるとよく聞く。家庭内では皆が忙しく時間的余裕のない昨今だが、子どもたちが自宅で生活する時間の長い小・中学生の期間での健康づくり、生活環境を整えることが、将来を切り開いていく土台となると感じている。職業選択のときにも選択の幅を広げ、主体的に考えていけることにつながると思う。

「主体的、自主性」はやはりキーワードだと思う。私自身の身についていない学習の経験からも感じることだ。自分の好きなこと、打ち込めるこめることが見つければ一番良いが、自分で積極的にプランを立てて課題をこなしていくことでも様々な成長があると思う。

(三嶋) ここ数十年で学習内容、やることが大きく変わってきたと感じる。ICT教育もコロナ禍において随分進んできた。このような状況の中、何ができていないのかという分析をしっかりと行って、その対策に取り組むことで学力がアップするのだろうと思う。提案されている週2回15分の記述式の小テストなどは、テスト慣れすることにつながり、学ぶということを実感するのに有効だと思う。

学校訪問で気づいたことは、整理整頓されていて、きれいだとも無駄がなく、効率的な学習ができるということである。集中できる環境が整っているということなので、このようなことでも学力に差が生じると思っている。家庭で親がきれいにしていて、子どもたちにも自分たちの学校、学び舎を大切にする、感謝するという気持ちが生まれてくるものと思う。今の世の中に重要なことだと感じている。

(梅田) 求められている学力が変わってきていることを認識した。先日、子どもたちが使っているタブレットの研修会を受講した。最初はこのようなものはどうかという考えがあったが、操作してみて楽しくでき、新しい学びの形を体験して、子どもたちが上手に情報を得て、活用しながら学びにつなげているのだと実感した。

少し心配になったのは、自分が苦勞して調べなくても、すぐにインターネットで答えが出るところである。いろいろなことを調べて発表する場が、インターネットで調べたという発表が多く、人に聞いたりして調べなくても、すぐに情報が入ってくることである。ただ、良い形で使っていくことも大事だと感じた。

学力調査の問題を見てみたが、答えにたどり着くまでの過程を自分で考えるもので、答えを導く過程や説明が非常に大切だと感じた。教育委員会で分析もされているが、自分たちも学んでいかなければならないと感じた。

(阿部) 40年ほど前に、マークシート方式による回答が出てきたが、記述もかなりあったと思う。時代が巡り巡って、また記述に戻っているんだと感じた。それに合わせた指導をしていかないと、目標は達成できないと思う。

具体的な目標を達成するには具体的な手段が必要だが、子どもたちの主体性、自らのやる気がないと、絶対に点数は上がらない。自ら続けていくことが大切である。やらされている感を持っている限り成果は期待できない。個人個人の目標を、本人、学校、家庭が一緒になって立てていくことが非常に大切である。小学校の低学年にそれは難しいので、押し付けになるかもしれないが、やっていくしかないと思う。

本人にやる気を持たせて、集中力を高めて、成績を上げていくことが学校教育の大切な役割ではないか。それは、ものを教えること以外に人間形成につながる。

現在の状況から、全国平均・県平均を3～5ポイント上回ることを実現することは容易なことではない。授業時間が足りないのであれば、夏休みを短縮して授業時間を増やすことも必要であろう。具体的に提案すると、ぎおん柏崎祭りのときは休みにして、8月1日から8月10日までの平日を授業に充て、今日は一日国語だけやるとか、不得意科目を集中的にやるような抜本的な改革を早急に行うべきだと思っている。

(市長) 委員の皆様から、「生活環境、学習環境を整えることが、学力向上につながるのではないか。」「主体性がキーワードである。」「思考力を上げるための具体的な

施策の必要性」、「タブレットを使いながらも、考える力を伸ばしてほしい。」、「具体的な方法で取り組まないと目標は達成できない。持続させることが大切である。」というようなお話をいただいた。

「環境」という言葉が出てきたが、家庭環境に由来している問題は一つや二つではない。保護者が親としての仕事をしない、子どもの面倒を見ない、といったことから起こった事件も複数あった。教育委員会、学校としては、どうしてみようもない。病巣は深いものがある。親御さんがどのように自分の子どもと関わっているのか、子どもが勉強できる環境にないというところが目立ってきた。それが直接関係しているかどうか分からないが、特別支援学級につながっている部分がある。学力に関しては、指導補助員、介助員を増やしたことにより、先生の負担は軽減したかもしれないが、子どもたちの成績は、基礎的なことはともかく、応用力が劣っているということで、年度途中ではあるが、このプランを始めさせていただいた。危機感を持って進めていく。

## (2) 学校における諸課題について

### ア 小・中学校における「暴力行為・いじめ・不登校」の状況について

(事務局) 暴力行為は、文部科学省が調査を毎年行っているが、柏崎市が多いということはない。意図的なことではなく、特別に支援が必要な子がパニックになって手を出す事例があるという状況である。

いじめに関しては、いじめの認知が重要視されているが、「いじめ見逃しゼロ」を目指して頑張っている。令和2(2020)年度は、小学校で166件認知した。平成29(2017)年度からカウントする基準が変更になり、全国で数値が高くなっている。柏崎市は、1校当たりの平均認知数で全国・県平均を大きく下回っている。中学校では25件を認知したが、こちらも同様である。令和2(2020)年度に小・中学校で認知した191件のうち、181件は解消しており、残りは継続指導中である。令和3(2021)年度は、12月末現在で小・中学校で177件認知している。感染症に関係しているのかは分析に至っていない。いじめは積極的に認知することが大切だと言われており、見つけることと、見つけた後の対応に注力している。冷やかしからかいは、小・中学校で、共に多い。最近の傾向として、SNSによる誹謗中傷が目立ってきている。小学校においては、ズボン下ろしも発生している。ふざけてやっているのだろうが、当事者にとっては、本当に傷つき、一生それを取り戻せないような恥ずかしい思いをするというような事例もある。このようなことがなくなるように、厳しく対応している。

不登校の状況だが、小学校では増えていないが、中学校では増加傾向にあり、国や県と同程度の発生率になっている。年度をまたいでの不登校もある。要因も変わってきており、以前は、いじめがきっかけとなるケースが多かったが、今は、

多様化しており、親子関係や家庭内不和、生活リズムの乱れ、無気力・不安から不登校となるケースもある。中学3年生の女子生徒の事例で、成績も良く、問題ないと思っていた生徒だったが、自分が好んでいた YouTuber が突然サイトを閉じたことが原因で、ショックから何も手に付けられない状態になり、不登校になったということもある。親御さんも学校も対応に苦慮しており、カウンセラーの力を借りている状況である。支援を続けていきたい。

(市長) 今の情報提供に関して、御意見や質問があれば伺いたい。

(阿部) いじめや冷やかしは、言っている側と言われている側では、受け止め方が全く違う。言っている側は冷やかしているつもりはなくても、言われている側が不快に感じれば、いじめや冷やかしになってしまう。難しい問題であり、永遠のテーマであるように思う。不登校の原因が、YouTuber と言われると、学校の先生もお手上げなのかと思ってしまう。

(梅田) 児童館で子どもを見ているが、子どもの発する言葉の後ろに、何か言えない、隠れている部分があるとしたら、それを掘り起こし寄り添える環境作りが大切だと思う。今の子どもたちは、何か起こったときに自ら立ち上がろうとする心に弱さが見られる。心の強さ、生きる力を育んでいく場面が必要と感じている。

(三嶋) 不登校が、いじめではなく、家庭環境に起因しているケースが多いことに驚きを感じている。親の立場では、子が不登校になれば心配して学校に相談するというのが今までであったと思う。健全に学校生活を送って育っていくというのが親の本来の願いだと思う。いじめがきちんと認知されているのは、子どもたちの意識も変わって先生に相談できていたり、先生の取組もしっかりと行っている結果だと思う。

(米谷) 自分の子どもは自分の家庭で育てるという意識が欠けているように思う。

親はみんな働かなければならないのだから、子どもの世話をしてくれるシステムを社会が提供してくれて当然だろうという考えがあるように感じている。子育てを助ける社会の制度は有難く、利用することで、大人に心の余裕ができれば良い。しかしながら、子どもは、基本的には、家庭で責任を持ち育てるという姿勢は持っていたい。それぞれの家庭の雰囲気の中で子どもは育てたい。

様々な状況に合わせた社会のシステムを作っていく中で、セーフティーネットが用意されれば、親は有効利用しながら、頑張ってもらいたい。家庭内のお手伝い、役割分担で自分の存在意義を感じていくことも力になると思う。

(市長) 小・中学校合わせて不登校の要因にいじめは1件だけで、ほかに学校に係る要因は全体で30件であるのに対し、家庭や本人に係る要因は112件となっている。家庭や本人に関わるものが非常に多くなっている。不登校は、その要因が学校にあるかもしれないが、多くの要因は、家庭や本人にあるということを保護者にも示し、保護者の方にも一緒に考えていただかなければならないと思っている。

## イ 「働き方改革アンケート」の結果について

(事務局) 教員に働き方改革のアンケートを行ったので結果を報告する。これは、モデル校10校に7月から民間委託により警備員を配置し、19時30分に全員が退勤しようという取組を行ったことへのアンケートである。賛成83%、反対17%であった。「心身の休養に努めている。」「家庭時間・プライベート時間が増え、心の安定が保たれている。」という感想の一方で、「持ち帰りや休日出勤につながっている。」という記載もあった。自分の生活、勤務をどのように変えていくのか、自身の健康管理、家庭のことなどをしっかりと考えてほしいと思っている。業務量の削減等については、改善に向けて取組を継続していきたい。

## ウ 児童生徒の減少に伴う各種行事・教育活動の見直しについて

### (ア) 中学校の部活動の在り方について

(事務局) 中学校の部活動については、教員の意識が変わってきたことと、生徒数の減少により、単独校での部活動が成立しない状況になっている。土・日曜日の部活動の地域移行を進めている。

### (イ) 小学校の親善水泳大会について

(事務局) 小学校の親善水泳大会については、児童数の減少により大会運営はもとより、練習自体も厳しい状況になっている。感染症の影響により、水泳授業もできなくなっており、令和4(2022)年度も中止の方向で進んでいるようだ。また、今後プールの改築等を行わないこととして、今年度から児童を民間プールに送迎して授業を行ってきたが、このことによって放課後の練習ができないという学校が出てきた。学校間の不平等が生じているので、大会の廃止も視野に検討が行われている。

### (ウ) ぎおん柏崎まつりマーチングパレードへの参加について

(事務局) マーチングパレードについては、感染症により2年間行われていないが、これも児童数の減少によって、金管部の活動ができない状況になっている。大規模校は楽器の数だけ児童を集められるが、楽器の数だけ児童がいない学校も生じている。これは音楽の質も落とすことになり、パレードに参加してパフォーマンスできないということである。各学校で検討しているが、令和4年度において参加しない意向を示している学校が3校、令和5年度において参加しない意向を示している学校が2校ある。この5校が参加しないと、参加校は、ある一定程度の学校のみになってしまう。マーチング研究会でも、何とか参加できるような方策を検討しているようだ。

(市長) 全体を通して、委員の皆様から御意見を伺いたい。

(阿部) 小学校の親善水泳大会では、10年近く大会記録を持っていた。マーチングパレードも青年会議所のとらきにつくり上げ、担当の委員長もした。非常に残念で寂

しく思う。

働き方改革については、全国で教員が不足している記事が最近新聞に掲載されていた。働く上での条件面を整えていくことが大切だと思う。心にゆとりがないと何事もうまくいかない。経済的なこともあるが、時間的なことも含めて健全な体と心が教育現場でも求められている。働き方改革は、時代が要請していることだが、子どもたちの学力がおろそかになるようであれば本末転倒であって、元に戻すことも考えなければならなくなると思う。

(梅田) 学区のことだが、令和6(2024)年度からの高柳小学校と鯖石小学校の統合案が示された。まだ十分な地域説明会が行われないうちに方針が出たことで、保護者の皆様はかなりの不安と不満を持っている。いろいろな方のお話も聞いてきたが、保護者や子どものアンケートを実施した結果を持参したので、市長に後ほど確認いただきたい。

これからどうすべきか。統合だけでなく、他に何ができるかを一緒に考える機会を作ってほしい。子育てをしている人たちが地域を盛り上げ頑張っているが、このままでは生活していくことさえ難しいと考えてしまう。これから地域に子どもが増えるかという厳しい状況だが、2年という期間を定める前に別の方向性についても行政と一緒に考えていただきたい。人によって価値観や考え方は違うと思うが、実際に生活している人たちの声を聴きながら、安心して子育てをできる環境をつくっていくことが大切だと思う。

(三嶋) 学力の向上は、最後は児童・生徒のやる気次第である。先生が幾ら頑張っても限界がある。学校で定着した学力を維持するためには、自学が大切である。そのためには、家庭環境、保護者の協力がなくとも学力は上がらないと思う。低学年に関してはノートの取り方も大事であり、学校でこのようにやった方がよいということを読んで、それを子どもは家庭に持ち帰って親にアウトプットするくらいのやる気を持ってもらいたいと思う。秋田県が学力が高いのは、自学がしっかりとできているということを知っている。

中学校の部活動の在り方だが、中越地区の中体連から、来年度からは全競技において一人1競技とするという通知があった。これは二つの競技をまたいで活動ができなくなることだと感じた。例えば、野球部の生徒が陸上の駅伝大会に出場できなくなるというようなことだと思う。上越地区にも影響してくると思うので、これからの部活動も変わると感じている。

働き方改革については、先生方の退勤時間が早くなっているのは感じている。早く帰れる環境が少しずつ整ってきているのではないかと思う。目指す着地点は分からないが、休みやすい環境、土・日曜日は休める環境が大事だと思う。教員を目指す若者が増えていく職場環境が大事である。

(米谷) 児童、生徒の減少は、いろいろなところに影響が出ていると感じた。学校

生活のバラエティ豊かであることの大切さ、様々な体験ができなくなることを思うと本当に残念に思う。水泳は、他市の事例を見ても体育の授業から削られやすいように感じていたが、今まで柏崎の子どもたちは小・中学生の間に基本は身に着けることができ、大人になって水や泳ぎを楽しむことができていた。マーチングも、楽器に触れることができるのは、このときにしかできないような貴重な体験である。継続の方法はないだろうか。

様々な学校行事や体育、芸術系の学科、活動の中で、主体性や人との関わり方を育むような経験ができると思う。学区統合の計画が始まっているようだが、家庭科や芸術系の学科の先生の配置をしっかりと実現していただく意味でも、適切な学校規模は必要であると考えている。

(市長) 率直な御意見をありがとうございました。なかなか委員の皆様の思いどおりいかない部分もありますが、いただいた御意見を案として、学校現場や地域、保護者にもお伝えしたいと思っています。

(教育長) 小・中学校学力向上プロジェクトは、市長からも背中を押してもらったが、私自身も、やらなければならない、やりたいと思っていたことである。そしてこれはある意味、教育界のタブーに挑戦することになる。他自治体でここまで数値目標を掲げているところはないと思っている。学校の役割とはと問われると、児童・生徒への「知・徳・体」の醸成であり、学力向上についても、もっともだと思っただけだろう。しかし、具体的にテストの点数も上げよう、偏差値も上げようという、途端に評価は逆転してしまう。それは間違いだ、悪いことだと思われる方が、まだまだいらっしゃるように感じている。

たとえば今、コロナ禍の中で医療現場の方々が非常に頑張っいらっしゃる。子どもたちがその姿に憧れ、将来その道に進みたいと考えても、試験を受け、資格を取るという壁を乗り越えて行かななければならない。単に憧れで終わらせることなく、子どもたちがより多くの職業選択肢の中から自分の目標を定めて進んでいけるように、教育委員会、学校で取り組んでいく。教育委員の皆様からもお力添えをいただきますようお願いします。

(市長) 以上で、議事を終了します。

### 3 閉会

(事務局) 本日、協議いただいた内容については、議事録にして、後日、市ホームページに掲載をさせていただきます。

以上で令和3（2021）年度第1回総合教育会議を終了する。